

省力栽培が可能な メロン「フェーリア」 — 栽培と利用の手引き —



「フェーリア」とは どんなメロン？

メロン栽培では、着果の安定性や果実の品質を向上させるため、また、過繁茂による作業性の低下や病害虫の蔓延を防ぐ目的で、側枝を除去する等の整枝作業が行われています。この作業には多大な時間と労力が必要で、特に地這い栽培では負担の大きい屈んだ姿勢で作業を行うことから、管理作業の省力化が望まれています。

一方、ほとんどのメロン品種は、両性花型（両性花と雄花を付けるタイプ）ですが、両性花にはめしべとおしべの両方が存在することから自然に着果しやすく、余分に着果した果実の摘果に労力を要します。それに対し、単性花型（雌花と雄花を付けるタイプ）のメロンは、両性花の代わりに雌花を付けるため、自然着果しにくく余分な着果（余剰果）を少なくできる特徴があります。



体に大きな負担
となるメロンの
整枝作業

「フェーリア」は、整枝作業および余剰果の摘果作業の省力・軽作業化を目的として育成された、側枝の伸長が短く抑えられる短側枝性を有し、さらに余分な果実の発生を少なくできる単性花型のメロン品種です。

・メロンは栽培に手間がかかる野菜です。

「フェーリア」はイタリア語で「休暇」を意味します。

休暇を取れるぐらい省力的な栽培ができることを意図して「フェーリア」と命名しました。



「フェーリア」の特徴1

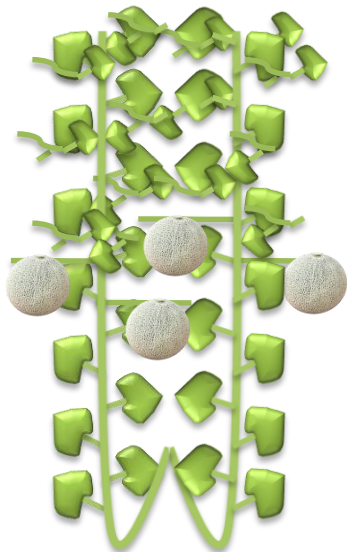
— 整枝作業の省力化 —



一般のメロン



一般のメロンの側枝、摘除しないと過繁茂になる



「フェーリア」



「フェーリア」の側枝、矢印は側枝の先端を示す

- 一般のメロン栽培では、着果枝と上位節の2本程度の側枝を残し、それ以外の側枝を摘除する栽培方法が行われています。
- 「フェーリア」の側枝は短く、着果枝以上の上位節の側枝を摘除しなくても過繁茂にならず、整枝作業の大幅な省力化が可能となります。

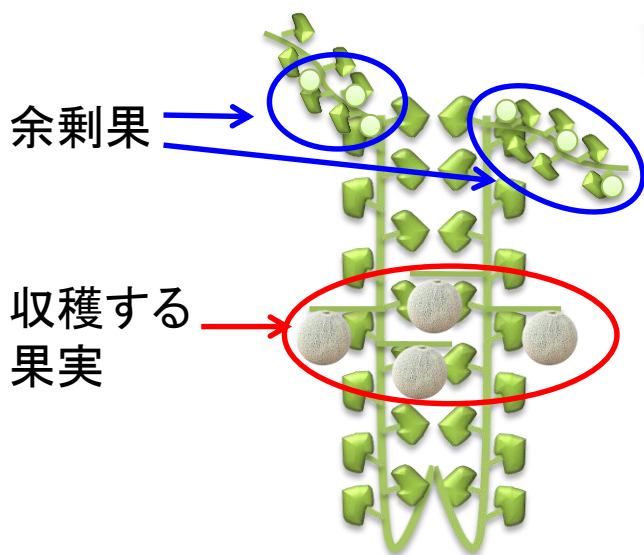
「フェーリア」の特徴2

—摘果作業の省力化—

一般のメロンは両性花と雄花を着生します。一方、「フェーリア」は雌花と雄花を着生します。



両性花 雌花 雄花



一般のメロン



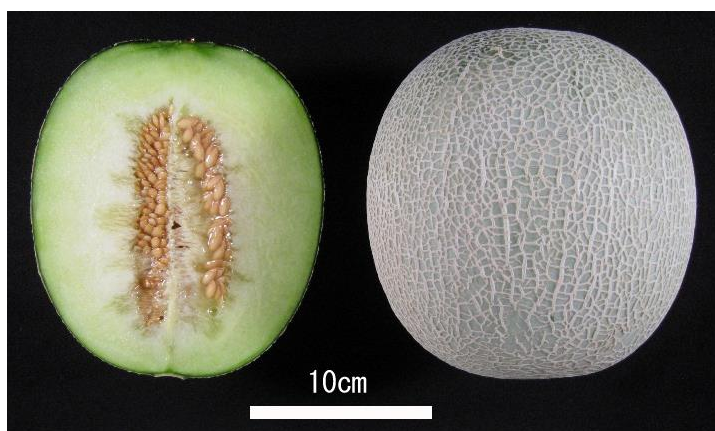
目的の節位以外に自然着果した余剰果は摘果しなければなりません。

- ・「フェーリア」は一般のメロン品種と異なり、両性花の代わりに雌花を付ける単性花型であるため、両性花で起きやすい自然着果による余剰果(うらなり果)が少なく、余分な果実の摘果作業が軽減されます。

「フェーリア」の一般特性



「フェーリア」の草姿



「フェーリア」の果実

「フェーリア」における省力性の評価および果実特性

品種・系統名	省力性の評価					果実特性		
	整枝・誘引時間 (h/10a)	側枝長 (cm) ²	余剰果 (個/株)	花型	省力性	果実重 (g)	糖度 (Brix)	食味
フェーリア	27.1	19.2	0.4	単性花	高	1406	13.2	良
アンデス5号	52.3	49.9	1.3	両性花	低	1612	11.4	中

アンデス5号：一般的なネット系のハウスメロン。

² 第11～20節に発生した側枝の長さの平均値を示す。なお、最大側枝長を50cmとして測定した。

1. 「フェーリア」は、強い短側枝性を有する単性花型の固定系統「AnSB-4」を種子親とし、中程度の短側枝性を有する固定系統「AnMP-1」を花粉親とするF₁品種です。
2. **整枝作業時間を最大で5割短縮できます。**
3. 多くの側枝が20cm未満で伸長を停止します。
4. 単性花型であるため、短い側枝を放任した場合でも、自然着果による余剰果の発生は少ないです。
5. 果実はやや縦長で、果皮は灰緑色でネットが密に発生します。果肉は淡緑色で、食味に優れます。
6. メロンの重要病害である、うどんこ病(レース1)、つる割病(レース0およびレース2)に対する抵抗性があります。

栽培面のポイント

適地・作型

- ・地這い栽培に適します。
- ・九州～東北における、半促成～早熟作型に適します。
- ・強光条件では側枝が長く伸長してしまうことから普通作型には適しません。

「フェーリア」の適作型

地域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
寒冷地	○	■	■	■	●							○
温暖地	■	■	■	●							○	■
暖地	■	●							○	■	■	■

○ : 播種期 ■ : 育苗期 ● : 定植期 ■ : 本圃 ● : 収穫期

播種・育苗

- ・一般的なメロン品種と同様に播種します。
メロンの発芽適温は28～30℃ですので、発芽を揃えるために保温に努めてください。
- ・育苗期間は9cmポットで30日程度です。
- ・一般的なメロン品種と同様に、本葉3～4枚程度残して摘心します。



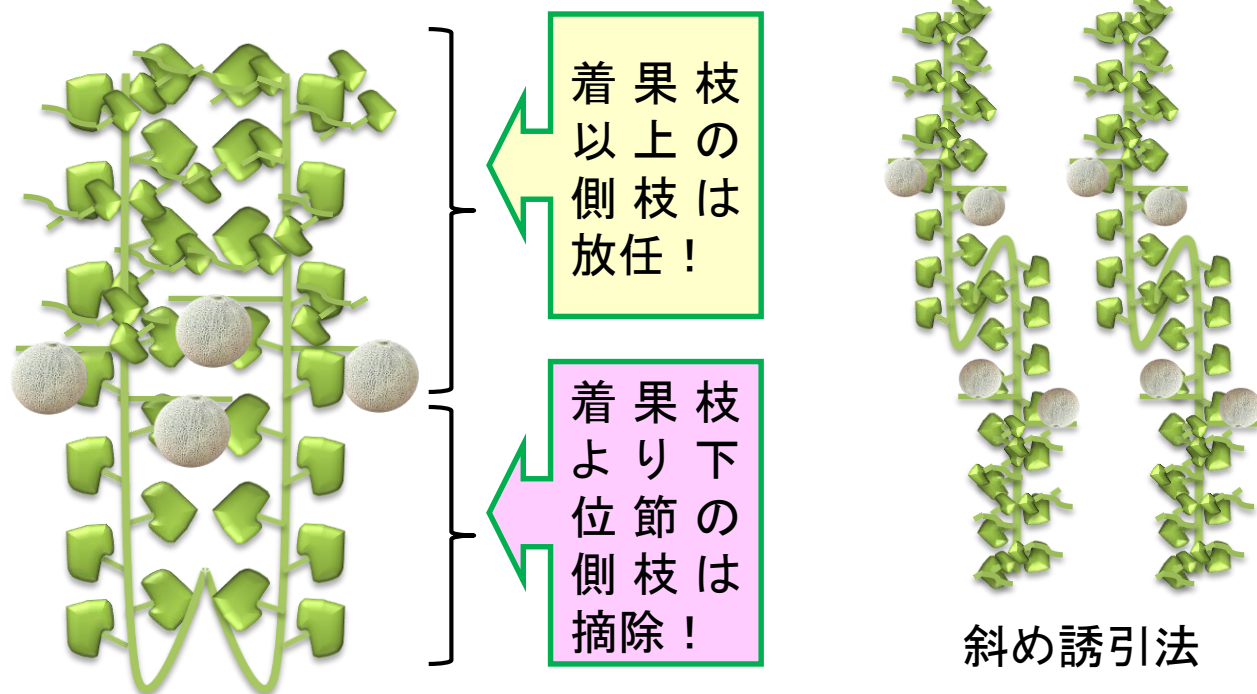
栽培面のポイント

施肥・本圃

- ・施肥・本圃の準備は、一般的なメロン品種と同様です。

定植・整枝

- ・株間60cm前後とし、畦幅は一般的なメロン品種と同様とします。
- ・斜め誘引法の場合、株間45～50cm程度が適します。
- ・定植後の温度管理は一般的なメロン品種と同様です。
- ・一般的な地這い栽培と同様に揃った2本の小づるを残し、その他の小づるを摘除します。
- ・着果枝より下位節から発生する側枝は長く伸張することがあるため早めに摘除し、着果枝以上の側枝を放任する栽培方法が推奨されます。一部の側枝が伸張する場合があります。この場合、長く伸びた側枝のみを一度摘除します。
- ・25節前後で主枝を摘心します。



栽培面のポイント

交配・着果・収穫

- 「フェーリア」は一般的なメロン品種に比べ、やや果実が小さいことから、着果節位をやや高節位の第12～14節を目標に着果させます。
- 1株4果穫りを基本とします。
- ネットの大割が発生しやすいので、果実の硬化期の灌水を控え、保温に努めてください。
- 訪花昆虫による余剰果の発生を減少させるため、交配期間の終了後にすみやかにミツバチを搬出し、ハウスには防虫ネットを展張することが望ましいです。
- 成熟日数は温暖地の6月上旬収穫でおよそ53日前後です。



↓ 交配2週間後(硬化期)



↓ 交配3週間後(ネット形成初期)



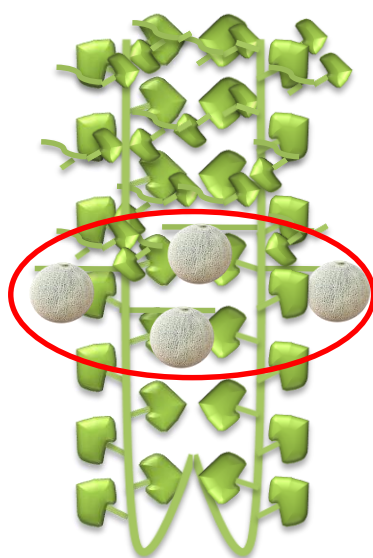
交配4週間後



交配5週間後



収穫期



第12～14節を
目標に着果！

栽培面のポイント

病害虫の防除

- ・つる枯病と菌核病に感染しやすいことから、これらの病害の発生が多い産地では防除が必要になります。また、害虫の防除も通常通り必要となります。



菌核病に感染したメロン

病害名	薬剤	希釈倍率
菌核病	アミスターオプティフロアブル	1000倍
	カンタスドライフロアブル	1000～1500倍
	スミレックス水和剤	2000倍
	ベルコートフロアブル	1000倍
	ベンレート水和剤	2000～3000倍
	ロブラール水和剤	1000倍
つる枯病	アフェットフロアブル	2000倍
	アミスターオプティフロアブル	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	400～600倍
	スコア顆粒水和剤	2000倍
	ストロビーフロアブル	2000～3000倍
	ダコニール1000	1000倍
	テーク水和剤	600～800倍
	ベルコートフロアブル	1000倍
	ポリベリン水和剤	1500倍
	ロブラール水和剤	1000倍

薬剤の使用にあたっては必ず使用法を守り、地域の防除暦や病害虫防除所等の指導に従ってください。

種子の入手について

「フェーリア」の種子については、民間種苗会社からの販売が開始されるまでの間、野菜茶業研究所と「原種苗提供契約」を締結のうえ、有償にて提供させていただきます。原種苗提供申込のお問い合わせは下記にお願いします。

農研機構 野菜茶業研究所 企画管理部 業務推進室
企画チーム TEL:050-3533-3810(直通)

品種の利用許諾については、下記へお問い合わせ下さい。

農研機構本部 連携普及部 知財・連携調整課
種苗係 TEL:029-838-7390・7246(直通)

執筆者

農研機構 野菜茶業研究所 野菜育種・ゲノム研究領域
主任研究員 杉山充啓

(農研機構は国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の略称です。)



省力栽培が可能なメロン「フェーリア」
—栽培と利用の手引き—

編集・発行

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
野菜茶業研究所

〒514-2392 三重県津市安濃町草生360

Tel: 050-3533-3861 Fax: 059-268-3124

<http://www.naro.affrc.go.jp/vegetea/index.html>

本冊子から転載・複製する場合には、野菜茶業研究所の許可を得てください。